Cisco IP Phone のカスタマイズ

- 電話の情報とディスプレイの設定 （1 ページ）
- コール機能の設定 （6 ページ）
- 共有回線 （10 ページ）
- ボイス メールの設定 （11 ページ）
- 内線への着信音の割り当て （13 ページ）
- 音声設定の構成 （13 ページ）
- ユーザ アクセス制御 （14 ページ）
- 電話機 Web サーバ （15 ページ）
- XML サービス （18 ページ）

電話の情報とディスプレイの設定

電話機の Web ユーザ インターフェイスを使って、電話機の名前、背景の画像、ロゴ、スクリーン セーバーなどの設定をカスタマイズできます。

電話機の名前の設定

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 [全般（General）] の下で、[ステーション表示名（Station Display Name）] フィールドに電話機の名前を入力します。

この名前は、左上隅にある電話機の LCD に表示されます。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

電話機のページから壁紙を変更する

管理者は、電話機のデフォルトの壁紙を、利用可能ないずれかの壁紙に変更することを許可できます。

手順

ステップ 1 電話機の Web ページで、**[ユーザログイン（User Login）] > [音声（Voice）] > [ユーザ（User）]** を選択します。

ステップ 2 [電話機の背景（Phone Background）] フィールドの [画面（Screen）] セクションで、任意のオプションを電話機の壁紙として選択します。

- [デフォルト（Default）]：電話機には壁紙がありません。電話機の画面に壁紙が追加されない場合、電話機の画面にはモノクロの壁紙が表示されます。
- [ロゴ（Logo）]：電話機の Web ページで、電話機の背景のオプションとして [ロゴ（Logo）] を選択できます。[ロゴのURL（Logo URL）] に追加したロゴは、壁紙として使用されます。

  注意 [ロゴのURL（Logo URL）] または [画像のダウンロードURL（Picture Download URL）] は、255 文字を超えないようにする必要があります。

  ロゴの表示領域は、電話機の画面の中央です。電話機のロゴ表示領域のサイズは、128 × 128 ピクセルです。元のロゴのサイズが表示領域に収まらない場合、ロゴは表示領域に合わせてスケーリングされます。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

起動表示としてのロゴの追加

電話機の再起動時にロゴのアイコンをユーザーに対して表示する場合は、電話機の web ページからこの機能を有効にします。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [ユーザ（User）]** を選択します。

ステップ 2 [画面（Screen）] セクションで、[ブート表示（Boot Display）] フィールドから[ロゴ（Logo）] を選択します。[ロゴ URL（Logo URL）] フィールドで、ロゴ画像が保存されている場所の URL またはパスを入力します。

画像をダウンロードしてブート表示として追加することもできます。[ブート表示（Boot Display）] フィールドから [ダウンロード画像（Download Picture）] を選択します。[画像ダウンロード URL（Picture Download URL）] フィールドに画像が保存されている場所の URL またはパスを入力します。

ロゴは、.jpg または .png ファイルである必要があります。電話機には固定表示領域があります。そのため、元のロゴサイズが表示領域に収まらない場合は、画面に合わせて縮小する必要があります。ロゴの表示領域は、電話画面の中央部分です。Cisco IP 電話 6841および6851マルチプラットフォーム フォン の表示エリアのサイズは 64 x 64 です。Cisco IP 電話 6821 マルチプラットフォーム フォン の表示領域のサイズは 48 X 48 です。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

設定ユーティリティからのバックライト タイマーの調整

あらかじめ設定した時間に各電話機のバックライトを無効にすることで、省エネできます。バックライトがオフの状態でも、電話機のデスクトップは表示されたままです。

ユーザは **[ユーザログイン（User Login）] > [詳細（Advanced）] > [音声（Voice）] > [ユーザ（User）]** を選択してバックライト タイマーを調整できます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [ユーザ（User）]** を選択します。

ステップ 2 [画面（Screen）] の下で、[バックライトタイマー（Back Light Timer）] パラメータの設定を選択します。

ステップ 3 [LCD コントラスト（LCD Contrast）] フィールドで、目的のコントラストの数値を入力します。

回線ごとのコール アピアランス数の設定

回線で複数のコールアピアランスをサポートしている電話機は、回線に許可されるコール数を指定するように設定することができます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 [各種回線キーの設定（Miscellaneous Line Key Settings）] セクションで、[回線あたりのコール アピアランス（Call Appearances Per Line）] ドロップダウン リスト ボックスを使用して、回線ごとに許可されるコール数を指定します。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

着信コールおよび発信コールの名前の逆引きルックアップ

着信コール、発信コール、電話会議、コール転送で、番号の名前を逆引きルックアップします。電話機がサービス プロバイダー ディレクトリ、通話履歴、または連絡先を使用して名前を検索できない場合、名前の逆引きルックアップが機能します。名前の逆引きルックアップには、有効な LDAP ディレクトリ設定または XML ディレクトリ設定が必要です。

名前の逆引きルックアップでは、電話機の外部ディレクトリを検索します。検索が成功すると、コールセッションと通話履歴に名前が表示されます。同時に複数のコールがある場合、名前の逆引きルックアップでは 1 つ目の電話番号と一致する名前が検索されます。2 つ目のコールが接続または保留されたとき、名前の逆引きルックアップでは2つ目のコールに一致する名前が検索されます。

名前の逆引きルックアップは、デフォルトで有効になっています。

名前の逆引きルックアップでは、次の順序でディレクトリが検索されます。

1. 電話連絡先
2. コール履歴
3. LDAP ディレクトリ
4. XML ディレクトリ

（注） 電話機は次の形式を使用して XML ディレクトリを検索します。
`directory_url?n=incoming_call_number`

例：サードパーティ製サービスを使用するマルチプラットフォーム フォンの場合、電話番号（1234）の検索クエリの形式は次のとおりです。
`http://your-service.com/dir.xml?n=1234`

名前の逆引きルックアップの有効化および無効化

始める前に

- 名前の逆引きルックアップを有効化または無効化するには、以下のいずれかのディレクトリを設定します。
  - LDAP 社内ディレクトリ
  - XML ディレクトリ
- 電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 **[補足サービス（Supplementary Services）]**領域で、**[電話機の逆引きルックアップサービス（Reverse Phone Lookup Serv）]** を次に設定します。

- **[はい（Yes）]** - 名前の逆引きルックアップ機能を有効にします。
- **[いいえ（No）]** - 名前の逆引きルックアップ機能を無効にします。

ステップ 3 **[すべての変更の送信（Submit All Changes）]** をクリックします。

ステップ 4 代替方法は `config.xml` ファイルを使用して、名前の逆引きルックアップ機能をプロビジョニングすることです。

```
<Reverse_Phone_Lookup_Serv ua="na">Yes</Reverse_Phone_Lookup_Serv>
```

コール機能の設定

コール転送の有効化

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 [補足サービス（Supplementary Services）] の下で、有効にする各転送サービスに対して [はい（Yes）] を選択します。

- **Attn Transfer Serv**：在籍コール転送サービスです。ユーザは、コールに応答してから転送します。
- **Blind Transfer Serv**：ブラインド コール転送サービスです。ユーザは、発信者と会話せずにコールを転送します。

ステップ 3 転送サービスを無効にするには、このフィールドを [いいえ（No）] に設定します

ステップ 4 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

コール転送

コール転送は、電話機の Web ページにある [音声（Voice）] タブと [ユーザ（User）] タブで有効にすることができます。

[音声（Voice）] タブでのコール転送の有効化

ユーザに対してコール転送を有効にする場合は、このタスクを実行します。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 [補足サービス（Supplementary Services）] の下で、有効にする各コール転送サービスに対して [はい（Yes）] を選択します。

- [不在転送サービス（Cfwd All Serv）]：すべてのコールを転送します。
- [話中転送サービス（Cfwd Busy Serv）]：回線が話中の場合にのみコールを転送します。
- [無応答時転送サービス（Cfwd No Ans Serv）]：回線の応答がない場合にのみコールを転送します。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

関連トピック

DND とコール転送ステータスの同期
[機能キーの同期（Feature Key Sync）]を有効にする
XSI サービスによる自動転送ステータス同期を有効にする

[ユーザ（User）] タブでのコール転送の有効化

[設定ユーティリティ（Configuration Utility）] ページからコール転送設定を変更する機能をユーザに提供する場合は、次のタスクを実行します。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [ユーザ（User）]** を選択します。
ステップ 2 [コール転送（Call Forward）] の下で、[コール転送設定（CFWD Setting）] の [はい（Yes）] を選択します。
ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

会議の有効化

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 [補足サービス（Supplementary Services）] の [会議サービス（Conference Serv）] ドロップダウン リスト ボックスで [はい（Yes）] を選択します。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

設定ユーティリティを使用した不在着信通知の設定

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[ユーザ（User）]** を選択します。

[ユーザログイン（User Login）] > **[音声（Voice）]** > **[ユーザ（User）]** を選択できます。

ステップ 2 **[補足サービス]** セクションで、**[ハンドセット LED アラート（Handset LED Alert）]** フィールドの**[ボイス メール、不在着信（Voicemail, Missed Call）]** を選択します。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

応答不可を有効にする

ユーザが応答不可機能をオンまたはオフにできるようにします。発信者は、ユーザが応答不可であることを伝えるメッセージを受信します。ユーザは電話機で [無視（Ignore）] ソフトキーを押すことで、着信コールを別の宛先に転送できます。

電話機でこの機能が有効になっている場合は、DND ソフトキーを使用してこの機能をオンまたはオフにできます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[ユーザ（User）]** を選択します。

ステップ 2 [補足サービス（Supplementary Services）] 領域で、[DND設定（DND Setting）] ドロップダウンリストから [はい（Yes）] を選択します。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

回線（マルチライン電話機）を選択すると、電話画面の上部に応答不可バナーが表示されます。

次のタスク

別の設定を変更して、マルチライン電話機で選択済みまたは未選択の各回線の応答不可（現在、緑色の点灯）ステータスが適切に表示されることを確認します。DND とコール転送ステータスの同期を参照してください。

DND にスター コードを設定した場合、ユーザは各電話機の DND 機能を有効または無効にすることができます。DND のスター コードの設定 （9 ページ）を参照してください。

関連トピック

DND とコール転送ステータスの同期
[機能キーの同期（Feature Key Sync）]を有効にする
XSI サービスを介して DND ステータス同期を有効にする

DND のスター コードの設定

ユーザがダイヤルするスター コードによって、電話機の応答不可（DND）機能をオンまたはオフにするように設定できます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[地域（Regional）]** を選択します。

ステップ 2 [特定業種向けサービスアクティベーションコード（Vertical Service Activation Codes）] 領域の [DND Actコード（DND Act Code）] フィールドに *78 と入力します。

ステップ 3 [特定業種向けサービスアクティベーションコード（Vertical Service Activation Codes）] 領域の [DND Deactコード（DND Deact Code）] フィールドに *79 と入力します。

ステップ 4 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

共有回線

共有回線は、1 台以上の電話機に表示される電話番号です。同じ電話番号を複数の異なる電話機に割り当てることにより、共有回線を作成することができます。

着信コールは回線を共有しているすべての電話機に表示され、誰でもそのコールに応答することができます。1 台の電話機では、一度に 1 つのコールのみをアクティブにすることができます。

回線を共有しているすべての電話機にコール情報が表示されます。誰かがプライバシー機能をオンにすると、その電話機からの発信コールは表示されません。ただし、共有回線への着信コールは表示されます。

共有回線にコールがかけられると、共有回線を持つすべての電話機で呼出音が鳴ります。共有コールを保留にした場合、回線を共有している電話機で対応する回線キーを押して、コールを再開することができます。また、[再開（Resume）] アイコンが表示される場合は、[選択（Select）] ボタンを押すことができます。

次の共有回線機能がサポートされています。

- 回線捕捉
- パブリック保留
- プライベート保留
- サイレント割り込み（有効なプログラム可能なソフトキーを通じてのみ）

次の機能は、専用回線としてサポートされています。

- [転送]
- 会議
- コール パーク/コール取得
- コール ピックアップ
- 取り込み中
- コール転送

各電話機を個別に設定することができます。通常、すべての IP フォンでアカウント情報は同じですが、ダイヤルプランや優先コーデック情報などの設定は、電話機によって異なる場合があります。

共有回線の設定

電話機の Web ページで同じディレクトリ番号を複数の異なる電話機に割り当てることにより、共有回線を作成することができます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[内線（n）（Ext(n) ）]** を選択します。**(n)** は、共有する内線番号です。

ステップ 2 **全般**セクションで、**回線イネーブル**を**はい**に設定します。

ステップ 3 **[回線アピアランスの共有 (share Line)]**セクションで、**内線共有** を **[はい (Yes)]** に設定します。

内線共有を **[いいえ]** に設定した場合、**[電話機（Phone）]** タブの **[共有コールアピアランス（Share Call Appearance）]** の設定に関係なく、内線はプライベートとなりコールを共有しません。この内線を [共有（Shared）] に設定した場合、コールは **[電話機（Phone）]** タブの **[共有コールアピアランス（Share Call Appearance）]** の設定に従います。

ステップ 4 [共有ユーザID（Shared User ID）] フィールドで、内線が共有されている電話機のユーザ ID を入力します。

ステップ 5 [サブスクリプションの有効期限（Subscription Expires）] フィールドに、SIP サブスクリプションが失効するまでの秒数を入力します。デフォルトは 3600 秒です。

サブスクリプションが失効するまで、共有電話内線のステータスに関して、SIP サーバから NOTIFY メッセージが電話機に送信されます。

ステップ 6 [MWIの制限（Restrict MWI）] フィールドで、メッセージ待機インジケータを設定します。

- [はい（Yes）] - 専用回線（SIP）上のメッセージに対してのみ点灯します。
- [いいえ（No）] - すべてのメッセージに対して点灯します。

ステップ 7 **[プロキシおよび登録（Proxy and Registration）]** セクションの下の **[プロキシ（Proxy）]** フィールドにプロキシ サーバの IP アドレスを入力します。

ステップ 8 **[サブスクライバ情報（Subscriber Information）]** セクションで、共有内線の**表示名**と**ユーザー ID**（内線番号）を入力します。

ステップ 9 [**その他の回線キーの設定**] セクションで、**SCA Barge-IN 有効**を以下のように設定します。

- [はい（Yes）] - ユーザは共通回線で通話を引き継ぐことができます。
- [いいえ（No）] - ユーザが共通回線で通話を引き継ぐことを禁止します。

ステップ 10 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

ボイス メールの設定

ボイスメールシステムの外線電話番号や内線電話番号またはURLを設定することができます。外部のボイスメールサービスを使用している場合、番号にダイヤルアウトするために必要なすべての数字と必要な市外局番を含める必要があります。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 [音声（Voice）] > [電話（Phone）] を選択します。
ステップ 2 [全般（General）] の下で、[ボイスメール番号（Voice Mail Number）] を入力します。
ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。電話機が再起動します。

内線ごとのボイス メールの設定

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [内線（n）（Ext(n)）]** を選択します。(n) は、内線番号です。
ステップ 2 **[コール機能の設定（Call Feature Settings）]** で **[ボイスメールサーバ（Voice Mail Server）]** を入力します。
ステップ 3 （オプション）[ボイスメール登録間隔（Voice Mail Subscribe Interval）] にボイス メール サーバへの登録有効期限（秒単位）を入力します。
ステップ 4 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

電話機が再起動します。

メッセージ待機インジケータの設定

電話機の個々の内線にメッセージ待機インジケータを設定できます。メールボックスに新しいボイスメール メッセージがあると、メッセージ待機インジケータが点灯します。

ボイス メールが残っている場合、IP フォンの上部にあるインジケータを有効にするか、示されるメッセージ待機通知を表示できます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[内線（n）（Ext(n)）]** を選択します。(n) は、内線番号です。

ステップ 2 **[コール機能の設定]**セクションで、**メッセージ待機フィールド**を **[はい(Yes)]** に設定して、メッセージを有効にします。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

内線への着信音の割り当て

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[内線（n）（Ext(n)）]** を選択します。(n) は、内線番号です。

ステップ 2 [コール機能の設定（Call Feature Settings）] の下で、[デフォルト着信音（n）（Default Ring (n)）] ドロップダウン リスト ボックスを使用して次のいずれかを指定します。

- [呼出音なし（No Ring）]
- 使用可能な 12 の着信音のいずれかを選択します。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

音声設定の構成

ユーザは、電話機の音量調節ボタンを押してから、[保存（Save）] ソフトキーを押すことにより、音量設定を変更できます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[ユーザ（User）]** を選択します。

ステップ 2 [音声の音量（Audio Volume）] セクションで、1（最小音量）～ 10（最大音量）の音量レベルを設定します。

- [呼出音音量（Ringer Volume）]：呼出音の音量を設定します。
- [スピーカーの音量（Speaker Volume）]：全二重スピーカーフォンの音量を設定します。
- [ヘッドセットの音量（Headset Volume）]：ヘッドセットの音量を設定します。
- [ハンドセットの音量（Handset Volume）]：ハンドセットの音量を設定します。

Cisco IP 電話 6851 マルチプラットフォーム フォン のみが電子フックスイッチ機能をサポートしています。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

オーディオコンプライアンス規格を指定する

電話機のオーディオ調整に関する準拠規格を指定できます。準拠規格が指定されると、指定された規格に準拠する音響パラメータが電話機にロードされます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **音声** > **ユーザ**に移動する。

ステップ 2 **オーディオコンプライアンス**セクションで、オーディオコンプライアンスに説明されているように**準拠規格**ドロップダウンリストからオプションを選択します。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

ユーザ アクセス制御

Cisco IP Phone は "ua" ユーザ アクセス属性だけを尊重します。特定のパラメータでは、"ua" 属性が管理 Web サーバへのユーザ アカウントによるアクセスを定義します。"ua" 属性が指定されなかった場合は、電話機が対応するパラメータの工場出荷時のユーザ アクセスを適用します。この属性は、管理者アカウントによるアクセスに影響しません。

（注） 要素属性の値は二重引用符で囲みます。

"ua" 属性は、次のいずれかの値にする必要があります。

- na：アクセスなし
- ro：読み取り専用
- rw：読み取り/書き込み

電話機 Web サーバ

Web サーバでは、管理者とユーザは電話機の Web ユーザ インターフェイスを使用して電話機にログインできます。管理者とユーザは異なる権限を持ち、表示されるオプションはそれぞれの権限に基づいて異なります。

電話画面インターフェイスからの Web サーバの設定

電話画面から電話機の Web ユーザ インターフェイスを有効にする場合は、次の手順を使用します。

手順

ステップ 1 アプリケーション ボタン を押します。
ステップ 2 **[ネットワーク構成（Network Configuration）] > [Webサーバ（Web Server）]** を選択します。
ステップ 3 有効にするには [オン（On）] を、無効にするには [オフ（Off）] を選択します。
ステップ 4 [設定（Set）] を押します。

ダイレクト アクション URL

[ダイレクトアクションURLの有効化（Enable Direct Action URL）] 設定が [はい（Yes）] に設定されている場合、管理者のみがこれらのダイレクト アクション URL にアクセスできます。管理者ユーザがパスワードで保護されている場合、これらの URL にアクセスする前に、クライアントによりログイン プロンプトが表示されます。ダイレクト アクセス URL には、電話機の Web ページからパス `/admin/<direct_action>` を介してアクセスできます。構文は次のとおりです。

`http[s]://<ip_or_hostname>/admin/<direct_action>[?<url>]`

例：**`http://10.1.1.1/admin/resync?http://server_path/config.xml`**

次の表は、サポートされているさまざまなダイレクト アクション URL のリストを示しています。

direct_action	説明
resync	URL で指定された設定ファイルのワンタイム再同期を開始します。再同期する URL は ? を前に付けて指定します。ここで指定した URL は、電話機の設定には保存されません。 **例** http://10.1.1.1/admin/resync?http://my_provision_server.com/cfg/device.cfg
upgrade	指定されたロードへの電話機のアップグレードを開始します。ロードは、アップグレードルールを介して指定されます。ルールは、ロードする URL パスの前に ? を付けて指定します。指定されたアップグレード ルールは 1 回だけ使用でき、プロパティ設定に保存されません。 **例** http://10.1.1.1/admin/upgrade?http://my_upgrade_server.com/loads/sip88xx.11.0.0MP2.123.loads
updateca	URL で指定されたカスタム認証局（カスタム CA）のワンタイム インストールを開始します。ダウンロードする URL は ? を前に付けて指定します。ここで指定した URL は、電話機の設定には保存されません。 **例** http://10.1.1.1/admin/updateca?http://my_cert_server.com/certs/myCompanyCA.pem
reboot	電話機の再起動を開始します。? 付きのパラメータは使いません。 **例** http://10.1.1.1/admin/reboot
cfg.xml	電話機設定のスナップショットを XML 形式でダウンロードします。セキュリティのため、パスワードは表示されません。ここのほとんどの情報は、電話機の Web ページの [音声（Voice）] タブにあるプロパティに対応しています。 **例** http://10.1.1.1/admin/cfg.xml
status.xml	電話機のステータスのスナップショットを XML 形式でダウンロードします。ここのほとんどの情報は、電話機の Web ページの [ステータス（Status）] タブに対応しています。 **例** http://10.1.1.1/admin/status.xml
screendump.bmp	このアクションを開始するときの電話機の LCD UI のスクリーンショットをダウンロードします。 **例** http://10.1.1.1/admin/screendump.bmp

direct_action	説明
log.tar	電話機に保存されているアーカイブ ログのセットをダウンロードします。 例 http://10.1.1.1/admin/log.tar

電話機 Web インターフェイスへのアクセスの有効化

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [システム（System）]** を選択します。

ステップ 2 [システム設定（System Configuration）] セクションで、[Webサーバの有効化（Enable Web Server）] ドロップダウン リスト ボックスから [はい（Yes）] を選択します。

ステップ 3 [プロトコルの有効化（Enable Protocol）] ドロップダウン リスト ボックスで、[Http] または [Https] を選択します。

ステップ 4 [Webサーバポート（Web Server Port）] フィールドに、Web サーバにアクセスするためのポートを入力します。HTTP のデフォルト ポートは 80、HTTPS のデフォルト ポートは 443 です。

ステップ 5 [Web管理アクセスの有効化（Enable Web Admin Access）] ドロップダウン リスト ボックスで、電話機の Web ユーザ インターフェイスの [管理者ログイン（Admin Login）] へのローカル アクセスを有効または無効にできます。デフォルトは [はい（Yes）]（有効）です。

ステップ 6 システム管理者にパスワードを使用して電話機の Web ユーザ インターフェイスにログインさせる場合は、[管理者パスワード（Admin Password）] フィールドにパスワードを入力します。管理者が [管理者ログイン（Admin Login）] をクリックしたときにパスワード プロンプトが表示されます。パスワードの最小長は 4 文字、最大長は 127 文字です。

（注） パスワードには、スペース キーを除く任意の文字を使用できます。

ステップ 7 ユーザにパスワードを使用して電話機の Web ユーザ インターフェイスにログインさせる場合は、[ユーザパスワード（User Password）] フィールドにパスワードを入力します。ユーザが [ユーザログイン（User Login）] をクリックすると、パスワード プロンプトが表示されます。パスワードの最小長は 4 文字、最大長は 127 文字です。

（注） パスワードには、スペース キーを除く任意の文字を使用できます。

ステップ 8 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

XML サービス

電話機は、XML ディレクトリ サービスやその他の XML アプリケーションなどの XML サービスのサポートを提供します。XML サービスの場合、HTTP と HTTPS のサポートのみが利用可能です。

次の Cisco XML オブジェクトがサポートされています。

- CiscoIPPhoneMenu
- CiscoIPPhoneText
- CiscoIPPhoneInput
- CiscoIPPhoneDirectory
- CiscoIPPhoneIconMenu
- CiscoIPPhoneStatus
- CiscoIPPhoneExecute
- CiscoIPPhoneImage
- CiscoIPPhoneImageFile
- CiscoIPPhoneGraphicMenu
- CiscoIPPhoneFileMenu
- CiscoIPPhoneStatusFile
- CiscoIPPhoneResponse
- CiscoIPPhoneError
- CiscoIPPhoneGraphicFileMenu
- Init:CallHistory
- Key:Headset
- EditDial:n

サポートされる URI の完全なリストは、次の URL にある『*Cisco Unified IP Phone Services Application Development Notes for Cisco Unified Communications Manager and Multiplatform Phones*』に含まれています。

https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/ip-phone-6800-series-multiplatform-firmware/products-programming-reference-guides-list.html

XML ディレクトリ サービス

XML URL に認証が必要な場合、パラメータ **XML UserName** および **XML Password** を使用します。

XML URL のパラメータ **XML UserName** は、$XML UserName に置き換えられます。

例：

パラメータ XML UserName は、**cisco** です。XML ディレクトリ サービス URL は、**http://www.sipurash.compath?username=$XML_User_Name** です。

結果のリクエスト URL：`http://www.sipurash.com/path?username=cisco`

XML アプリケーション

外部アプリケーション（たとえば、Web アプリケーション）から電話機への Post を介した CGI/実行 URL に認証が必要な場合、パラメータ `CISCO XML EXE Auth Mode` が次の 3 つの異なるシナリオで使用されます。

- 信頼済み：認証は実行されません（ローカル ユーザ パスワードが設定されているかどうかに関係なく）。これはデフォルトです。
- ローカル クレデンシャル：ローカル ユーザ パスワードが設定されている場合、認証は、ローカル ユーザ パスワードを使用したダイジェスト認証に基づきます。ローカル ユーザ パスワードが設定されていない場合、認証は実行されません。
- リモート クレデンシャル：認証は、（XML アプリケーション サーバにアクセスするために）Web ページの XML アプリケーションで設定されているリモート ユーザ名やパスワードを使用したダイジェスト認証に基づきます。

マクロ変数

XML URL でマクロ変数を使用することができます。次のマクロ変数がサポートされています。

- ユーザ ID：UID1、UID2 ～ UIDn
- 表示名：DISPLAYNAME1、DISPLAYNAME2 ～ DISPLAYNAMEn
- 認証 ID：AUTHID1、AUTHID2 ～ AUTHIDn
- プロキシ：PROXY1、PROXY2 ～ PROXYn
- 小文字の 16 進数を使用した MAC アドレス：MA
- 製品名：PN
- 製品シリアル番号：PSN
- シリアル番号：SERIAL_NUMBER

次の表に、電話機でサポートされているマクロのリストを示します。

マクロ名	マクロ展開
$	$$ 形式は、単一の $ 文字に展開されます。

マクロ名	マクロ展開
A ～ P	汎用パラメータ GPP_A ～ GPP_P で置き換えられます。
SA ～ SD	特殊用途のパラメータ GPP_SA ～ GPP_SD で置き換えられます。これらのパラメータには、プロビジョニングで使用されるキーまたはパスワードが保持されます。 （注） $SA ～ $SD は、オプションの resync URL 修飾子 --key を引数として認識されます。
MA	小文字の 16 進数を使用した MAC アドレス（000e08aabbcc）。
MAU	大文字の 16 進数を使用した MAC アドレス（000E08AABBCC）。
MAC	小文字の 16 進数を使用し、16 進数ペアがコロンで区切られた MAC アドレス（00:0e:08:aa:bb:cc）。
PN	製品名。IP Phone 6841 など。
PSN	製品シリーズ番号。6841 など。
SN	シリアル番号の文字列。88012BA01234 など。
CCERT	SSL クライアント証明書のステータス（インストール済みまたは未インストール）。
IP	ローカル サブネット内の電話機の IP アドレス。192.168.1.100 など。
EXTIP	インターネットで表示される、電話機の外部 IP。66.43.16.52 など。
SWVER	ソフトウェア バージョンの文字列。2.0.6(b) など。ソフトウェア バージョンの文字列を使用して、次のいずかの方法で、現在の電話機のファームウェア ロードと比較します。 • **引用符ありの "$SWVER"**：ファームウェア ロード名の比較で変数が文字列として機能します。`"$SWVER" eq "sip8845_65.1-0129-18-0356dev.loads"` の場合、電話機のモデル番号とロード番号は比較の一部です。 • **引用符なしの $SWVER**：変数が解析され、ビルド番号に加えて、メジャー、マイナー、およびマイクロ リビジョン番号が判別されます。たとえば、`sip88xx.11-1-1MSR-1dev.loads` と `sip8845_65.11-1-1MSR-1dev.loads` のファームウェア名が解析された場合、その結果でモデル番号とロード番号が無視されます。両方のファームウェア名の解析結果として、メジャー リビジョン=1、マイナー リビジョン=1、マイクロ リビジョン=1MSR、ビルド番号=1 が得られます。

マクロ名	マクロ展開
HWVER	ハードウェア バージョンの文字列。1.88.1 など。
PRVST	プロビジョニングの状態（数値文字列） • -1 = 明示的な再同期要求 • 0 = 電源投入再同期 • 1 = 定期的な再同期 • 2 = 再同期の失敗、再試行
UPGST	アップグレードの状態（数値文字列） • 1 = 最初のアップグレード試行 • 2 = アップグレードの失敗、再試行
UPGERR	前回のアップグレード試行の結果メッセージ（ERR）。http_get failed など。
PRVTMR	最後の再同期から経過した秒数。
UPGTMR	最後のアップグレード試行から経過した秒数。
REGTMR1	SIP サーバで回線 1 が登録解除されてから経過した秒数。
REGTMR2	SIP サーバで回線 2 が登録解除されてから経過した秒数。
UPGCOND	レガシーのマクロ名。
SCHEME	ファイル アクセス スキーム（再同期またはアップグレード URL の解析後に取得される TFTP、HTTP、または HTTPS）。
METH	廃止された SCHEME エイリアス。使用しないでください。
SERV	ターゲット サーバのホスト名を要求します。
SERVIP	ターゲット サーバの IP アドレスを要求します（DNS ルックアップの後）。
PORT	ターゲット UDP/TCP ポートを要求します。
PATH	ターゲットのファイル パスを要求します。
ERR	再同期またはアップグレード試行の結果のメッセージ。
UIDn	回線 n の UserID 設定パラメータの内容。
ISCUST	ユニットがカスタマイズされている場合、値は 1。それ以外の場合は 0。 （注） Web UI 情報ページで確認できるカスタマイズ ステータス。

マクロ名	マクロ展開
INCOMINGNAME	最初の接続、呼び出し、または着信コールに関連付けられた名前。
REMOTENUMBER	最初の接続、呼び出し、または着信コールの電話番号。複数のコールがある場合は、最初に見つかったコールに関連付けられているデータが渡されます。
DISPLAYNAMEn	回線 N の表示名設定パラメータの内容。
AUTHIDn	回線 N の認証 ID 設定パラメータの内容。

XML アプリケーションに接続するための電話機の設定

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 次の情報を入力します。

- XML アプリケーション サービス名 — XML アプリケーションの名前。メニュー項目としてユーザの電話機に表示されます。
- XML アプリケーション サービス URL — XML アプリケーションがある URL。

XML アプリケーションに接続するように未使用のライン ボタンを設定する場合、ボタンは上記で設定した URL に接続します。この動作を希望しない場合は、ライン ボタンの設定時に別の URL を入力する必要があります。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

XML ディレクトリ サービスに接続するための電話機の設定

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 次の情報を入力します。

- XML ディレクトリ サービス名 — XML ディレクトリの名前。ディレクトリの選択肢としてユーザの電話機に表示されます。
- XML ディレクトリ サービス URL — XML ディレクトリがある URL。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。